

## 灰塚ダムの取水・放流設備

灰塚ダムには、ダム湖に貯留した水を下流へ流すために様々な設備があります。

### 洪水調節設備

「常用洪水吐き」は、洪水時にダムに入ってくる流水を貯留しながら、その一部を流すための設備です。ダムに入ってくる洪水を小さくして下流に流すことで、ダム下流域の洪水被害を軽減します。



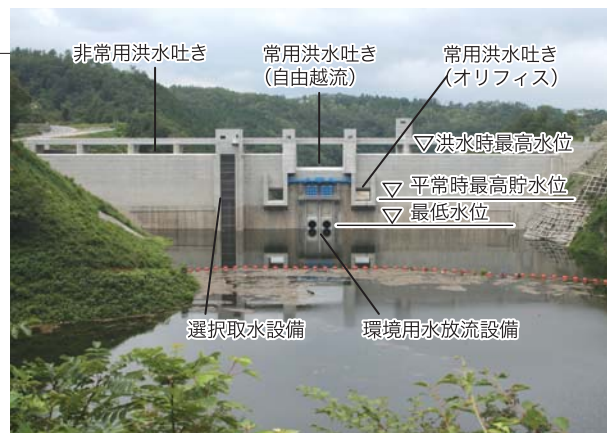
ダム下流面

### 環境用水放流設備

ダム下流河川の環境保全などを目的として、中小出水の再現放流、フラッシュ放流、洪水後期における貯水位低下のための早期放流を行うための放流設備です。ダムにおける環境保全を主目的とした放流設備の設置は、全国でも先進的な取り組みです。

### 利水放流設備 (選択取水設備)

利水放流設備は、ダムより下流域の既得取水の安定化及び河川環境の保全、さらに水道用水の供給のために必要な水量を流す設備です。任意の水深から取水することができ、水温や水質を監視しながら、最適な水深から取水しています。



ダム上流面

## 灰塚ダム知和ウェットランド

灰塚ダム知和ウェットランドは、①洪水調節区域の荒廃防止、②水生植物を利用したダム湖流入水の水質浄化、③新たな水辺生態系の創出、④住民参加による整備とそれを活かした地域活性化を目的に整備しました。

今後、ウェットランドにどのような生物が棲み着くのか、水辺環境はどのように変化していくのかなど、整備後の環境変化を追跡する調査を行いつつ、環境管理保全活動の拠点として適切に管理していきます。



※ウェットランドとは、浅い開放系の水域一湖、池、河川、海岸の外縁部一そして、定期的に、またはある時期に水で覆われる土地や、水で充滿する土地一湿原、沼沢地、氾濫原やそれらに類する土地一のこと

資料：WWF(世界自然保護基金)ジャパンホームページより